

**研究テーマ**

研究主題 自ら思考、判断し、表現できる児童の育成  
～思いを豊かに伝える表現力の向上を目指して～

**目指す子ども像**

- (1) 社会的事象に興味をもち、自ら問いをもっている子
- (2) 自ら情報を集めたり、活用したりして、課題解決に取り組もうとする子
- (3) 自分の学びを振り返り、次への課題意識や学習意欲をもっている子

**目指す授業像**

- (1) 社会的事象を多角的に見つめさせ、問いをもたせることができている
- (2) 児童自らが考え、友達と関わり合いながら課題を解決する場面を設定することができる
- (3) 児童の振り返りから学びを見取り、学びを広げたり深めたりすることができる

**<研究教科の授業における具体的取り組み>**

児童自ら「社会的な見方・考え方」を働かせることができる問いの構成  
児童が自分の学びを振り返り、次への課題意識を育てる場の設定

**1. 児童の問題意識を高める場面**

未知と出会わせたり、児童の既知をゆさぶったりする問い



- ア. 知識の構造図を使い、「教えるべきこと」と「考えさせること」を明確にする。
- イ. 既知・未知シートを活用し、児童の思考を整理する。
- ウ. 社会的事象と出会わせるとき、比較・ズレなどを用いてインパクトのある出会いを仕組む。

**2. 児童が学習に取り組む場面**

児童が、自分の考えをもって話し合いを行えるような問いや活動・場の設定



- ア. 一人ひとりに問いや考えを持たせるために、資料の提示の仕方を工夫する。
- イ. 「なぜ」「どうして」など、児童にとって切実感のある問いを考える。
- ウ. 児童が自分の言葉で考えを表現できるよう、ICT機器を活用する。

**3. 児童が学びを深める場面**

児童が、自分の学びを振り返り課題意識をつなげていけるような場の設定



- ア. 児童の振り返りから学びを見取り、全体へ広めたり、個人内で深めたりできるような場を工夫する。
- イ. 話し合いや振り返りの場面で、児童が課題意識をつなげられるよう、教師がファシリテーターの役割をする。

**研究仮説**

児童自ら「社会的な見方・考え方」を働かせることができる問いを投げかけたり、自分の学びを振り返り、次の学習へつなげていけるよう手立てをしたりすれば、児童は主体的に課題を追求し、社会的事象の見方・考え方が養われるであろう。

**研究のまとめ**